

TAKE
FREE

ご自由に
お持ちください

岡崎市民病院と地域の皆さまをつなぐ広報誌『つ・な・が・る』

2026

7月号

July
No.24

つ・な・が・る

Tsu-na-ga-ru



Special Report

特集▶

産婦人科

思春期から周産期、
更年期、老齢期まで
女性の人生に並走

CONTENTS

- 4 地域を支える
ひと・わざ・ころ
- 5 ホスピタルカフェ
- 6 OKAMIN NEWS

院長メッセージ

当院の産婦人科は、地域の基幹病院として、女性の健康を生涯にわたってサポートしています。今号では、ハイリスク妊娠・分娩など急性期医療から、産後のメンタル面まで一貫してサポートする体制だけでなく、生まれた時から思春期、周産期、更年期、老年期まで女性の生涯に並走する産婦人科について特集を組みました。



岡崎市民病院
Okazaki City Hospital

思春期から周産期、更年期、老年期まで 女性の人生に並走する産婦人科

思春期から、人によっては妊娠、出産など周産期、中年期、老年期へと年代ごとに変化が訪れる女性の体。周産期、女性のヘルスケア、婦人科疾患それぞれを専門とする小林知子統括部長、後藤真紀医局次長（兼地域周産期母子医療センター長）、鈴木徹平統括部長に、産婦人科のめざす姿や、新しい取り組みなどについて話を聞いた。

内科と同じように婦人科の

かかりつけ医を持つことが大切。

不調は我慢しないで相談を



後藤真紀 医局次長（兼地域周産期母子医療センター長）

GOTO MAKI

1997年日本医科大学卒業。2022年に入職。日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本女性医学会女性ヘルスケア専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医。不妊治療が専門で女性のヘルスケアにも精通している。



ロボット支援手術では、子宮全摘や子宮体がんの手術のほか、新たに、骨盤臓器脱の治療も行う

主体的に人生を決める女性を
産婦人科は生涯サポート

「産婦人科は、病気の方や妊婦さんだけが受診する科ではありません」と語るのは後藤真紀統括部長。「生まれた時から子ども時代、思春期、そして妊娠・出産の周産期、中高年から老齢期に至るまで女性のライフステージに合わせて一生並走していくのが産婦人科です」と優しい笑み。ワクチン接種を受けるか、妊娠を望むか、産むかどうか、また不妊治療においてもどこまで続けるか、最終的に決めるのはその人であり、医師はその決定を全力でサポートするという立ち位置だ。また、がん診療連携拠点病院として、AYA世代（15～39歳）のがん患者さんの妊孕性に関わることも重要な役割とする。

妊娠中の管理から出産、
産後のメンタルまでフォロー

拠点病院としてハイリスク妊娠・分娩にも対応する産婦人科。急性期医療だけでなく、産後のメンタ

専門医が ＼お答えします／

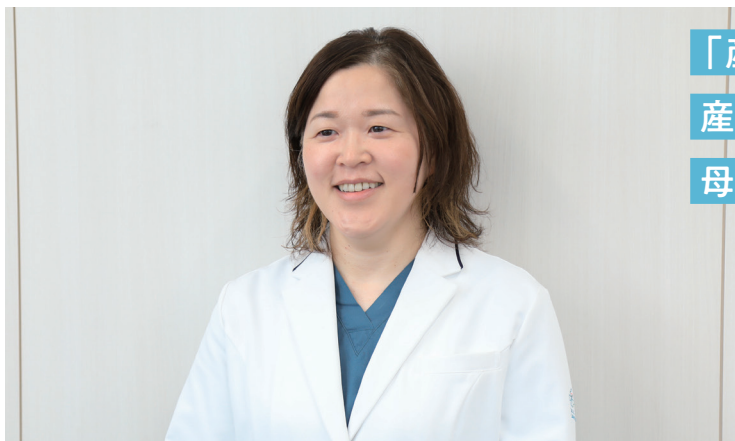
病院では日々、患者さまからさまざまな質問をいただきます。みなさまの疑問について、専門の医師がわかりやすく解説します。



将来、妊娠したいと考えているのですが、若い時から気をつけることは？

最近では、プレコンセプションケア、つまりコンセプション（妊娠）のプレ（前）段階の若いうちから、男女ともに自身の体、健康に意識を向けてケアしましょうという考え方が広まっています。ご自身に高血圧や糖尿病の持病があったり肥満だったりする場合、できれば病気をコントロールして体調の良いときに妊娠することが望ましいです。産婦人科はそうした相談に

もお答えしています。ただ、普段は問題なくても妊娠してから高血圧や糖尿病、肥満になる方も。その場合は次の妊娠や将来的な心疾患のリスクも考えて、産後も生活習慣に気をつけるとともに定期的に健診を受けてほしいですね。産後は育児が大変で自分のことは後回しになりがちですが、ご自身の体のケアもしてほしいと思います。（小林医師）



「産んだら終わり」ではなく、
産後ケアまで地域ぐるみでの
母子支援を実践

小林知子 統括部長

KOBAYASHI TOMOKO

2003年金沢医科大学卒業。2026年2月入職。日本産科婦人科学会産婦人科専門医。周産期専門医（母体・胎児）。これまで産科救急や産後うつなどの周産期メンタルヘルスケアに取り組んできた。

ル面まで一貫して支えていく体制が特徴だ。小林知子統括部長は、「当院では助産師、看護師、小児科医、臨床心理士、社会福祉士など多職種と、退院後は地域の保健師さんや開業医さんとしっかり連携し、産後ケアも含め、地域ぐるみで母子を支えています」と話す。分娩は急変も起こりうるため、超緊急帝王切開に備えてのシミュレーションを定期的実施、全員がブラッシュアップを続けている。ニーズの高い無

痛分娩に対しても、今後、慎重かつ安全な体制で取り組んでいく。

導入が進むロボット支援手術
低侵襲な治療を心がける

婦人科疾患の手術においてはロボット支援手術を積極的に実施する同科。子宮全摘や子宮体がんの手術に加え、新たに、骨盤臓器脱に対する仙骨靱帯固定術においてもロボット支援手術を開始する。「骨盤の深部での縫合や結紮

は、腹腔鏡下の鉗子で行うよりもロボットアームのほうがさまざまな角度で動けます」と鈴木徹平統括部長。ロボット支援手術では出血量の減少や手術時間の短縮も見込めるそうだ。「治療はできるだけ低侵襲に、副作用を少なく」と心がける。子宮や卵巣のがん治療においては薬の開発がめざましく、「新しい薬や治療法を患者さんに提供するため医師もアップデートが必要」と力を込める。

ロボット手術を積極的に導入。

副作用やリスクも考え合わせ、

低侵襲の治療を追求

鈴木徹平 統括部長

SUZUKI TEPPEI

2007年北海道大学医学部卒業後、2024年に入職。日本産科婦人科学会産婦人科専門医。日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医。患者さんの状況や疾患に合った治療、手術の提案を心がける。



月経前後に体調不良やイライラを感じますが、
受診してもいいのでしょうか？

私たちは情報発信も市民病院の務めと考え、中学校に向かう活動もしていますが、生徒さんからの月経に関するお悩みの相談は多いです。心身の不調の目安としては、学校生活や仕事、家事に支障が出るようであれば我慢せず受診しましょう。原因がわかるだけでも症状が改善することもあります。内科のかかりつけ医を持つように、婦人科も相談しやすいかかりつけ医を

持つといいですね。特に10代の方にとって産婦人科受診や診察については不安に思う方も多いと思いますが、その人のペースや希望に沿って行われますので、安心してください。専門的な治療が必要であれば適切な医療機関へ紹介してもらえます。また、定期的に子宮と卵巣のチェックを受けるなど、自分の体について将来も含めて大事にしてほしいですね。（後藤医師）



地域を支える ひと・わざ・こころ

病院ではさまざまな職種の人が働いています。中には患者さんとお会いすることのない陰で支えるスタッフも。今回は、診療放射線技師の久米勇人さんにお話を伺いました。



息を止められない患者さんにも、新たな選択肢を。

～患者さんに優しい心臓MRI撮影法「FlexiCINE」を開発～



診療放射線技師

久米勇人 KUME HAYATO

2009年に豊橋市内の民間医療機関に入職。2014年に磁気共鳴専門技術者を取得し、2015年より岡崎市民病院に勤務。MRIの現場責任者として1日40件以上の検査に携わる。Signal甲子園2025ではMRIの臨床実用性や汎用性、画質を競う「匠の技」部門にて金賞を受賞。

Q 診療放射線技師とはどのような職業ですか？

医師の指示に基づき、レントゲン、CT、MRI、超音波、核医学などの検査、また、がん患者さんに対する放射線治療などを行っています。私は主にMRI検査を担当。患者さんにできるだけ楽に受けていただけるよう日々努めています。

Q 久米さんが開発された「FlexiCINE」とは？

心臓の機能や状態を評価する検査では、呼吸を一時的に止めることが必要です。しかしお子さんや高齢の方、心疾患患者さんには難しいため、息止めをせず、心臓の動画がきれいに撮影できる方法を開発しました。

Signal
甲子園金賞受賞！

Q 息止めが難しい患者さんでも楽に検査を受けられますね。

眠った状態で検査ができるので、特に小児科の医師から好評です。MRIを担当する技師にとっても、患者さんに合わせ試行錯誤しながら撮影していた以前に比べ撮りやすくなり、撮り直しが減りました。

Q 仕事の難しさややりがいについてお聞かせください。

MRI検査の難しさは、患者さんごとに違う撮影条件をいかに調整していくかということ。その工夫がやりがいにもつながっています。日進月歩の医療に合わせ、私たち放射線技師も日々、院内外で勉強を続けています。



普段の検査業務をヒントに、息を止めないMRI検査法「FlexiCINE」を開発した久米さん。日頃から、患者さんの状態に合わせて撮影条件を調整しているという

地域の方へメッセージ



当院のMRIの特徴の一つとして、AI機能を搭載していることが挙げられます。鮮明な画像撮影ができ、撮影時間も導入前より5分ほど短くなりました。MRIは「狭い」「音がする」など苦手な方もいるかと思いますが、内臓や靱帯、筋肉、血管などの病変の発見につながる大事な検査です。私たちは丁寧な説明と、それぞれの方に最適な検査に努めていますので、心配なことは何でも聞いてくださいね。(久米さん)

病院のホットな情報をお届けします!



ホスピタルカフェ

「ホスピタルカフェ」では、病院に関するホットな人、取り組みなどをご紹介。

ホッと一息、ぜひお立ち寄りください!

今回のテーマ

診察時間に合わせた採血開始時間の導入

朝の混雑緩和と 待ち時間短縮をめざす

病気の診断、治療のための大事な検査の一つに採血があります。これまで、採血予定の患者さんは開院前から並んで受付をし、朝の混雑や長い待ち時間の発生が課題となっていました。それらを少しでも解消するために、2026年7月より、診療時間に合わせて、採血開始時間を設定しました。例えば診察時間が9時からの方は、採血の呼び出しは8時から、診察時間が10時半からの

方は採血の呼び出しは9時から、という具合です。もちろん当日の状況により時間が前後することもあります。採血開始時間を分散させることで、できるだけ患者さんの待ち時間を短くスムーズに診察を受けていただけるような流れにすることがねらいです。おおよその時間のめどが立てば、患者さんにも待ち時間をリラックスして過ごしていただけるのではないのでしょうか。採血のみで来院される患者さんにも、混雑緩和のため午後(16:30まで)のご来院にご協力いただければと思います。



◀医療技術局長の田中徳明さん。この取り組みの中心メンバーとして活躍



◀臨床検査室主幹の足立郁美さん。日々スムーズな採血を心がける

Close up 日頃から外来管理センターで課題を解決

患者さんの声にも耳を傾け、安全かつ速やかな検査体制の維持を



同院では1日に300～450人の採血を実施。安全・速やかな採血を皆で心がけている

「めざすは、診察・検査などを予約時間どおりに行い待ち時間を減らして、時間を有効に使える快適な受診環境にすることです」と話すのは、医療技術局長の田中徳明さん。日頃から、患者さんに快適に診察を受けてもらうため、外来に関わるさまざまな課題を外来管理センターで話し合っているそう。

「患者さんからいただくご意見を参考にしながら、より良い運用をしていければ」と同局臨床検査室主幹の足立郁美さんは期待を込めて話す。

第3回まちの保健室を開催しました！



5月16日(土)に、当院看護局主催の、「まちの保健室」を開催しました。看護師による健康相談では、正しい血圧測定や、血糖測定、骨密度測定や握力測定などを行いました。

検診精査外来の診療日を拡充しました



検診精査外来では、健診で要精査、要医療となった方を対象に精密検査を行います。今回、診療日を拡充し忙しい患者の皆さまも受診しやすくなりました。要精査の結果を放置せず、ぜひ受診ください。

6/1より院外処方箋のデザインが変わりました！

院外薬局の薬剤師との連携強化、そして医療の質の向上を目的に、院外処方箋に身長・体重などの身体情報と臨床検査値の情報を記載します。

身体情報・臨床検査値の表示を希望されない場合は医師へお申し出ください。次回以降表示を行わないようにいたします。



職員向けの災害対応イベントを開催しました

地域中核災害拠点病院である当院では、職員向けの災害対応イベントも開催しています。2025年度は、職員用備蓄食料が試食できるブースや、参加者の自宅が病院から何キロ離れているかわかるブースなどを準備しました。来年度も職員はぜひ参加をお願いします。



OKAMINからのひとこと

眠った状態でMRI検査ができるのは画期的だね。また、採血の待ち時間を減らすために仕組みが変わったので、「ホスピタルカフェ」を読んで確認してね！

岡崎市民病院公式マスコットキャラクター
OKAMIN(おかみん)



ラジオ放送中

エフエムEGAO「イブニングチャージ」で旬の健康情報を聞こう

18:00~18:20	イブニングチャージ「いまどき旬」コーナー
2026年 7月16日(木)	医薬品、健康食品、サプリメント、トクホ、色々あるけどいったい何が違うの？ 薬局 薬局長補佐 村井宏通
8月20日(木)	知って安心、MRIのはなし ～金賞受賞から見える放射線技師の工夫～ 放射線室 診療放射線技師 久米勇人
9月17日(木)	小児の摂食障害 副院長兼患者サポートセンター長 長井典子

エフエム EGAO
(76.3MHz)
エフエムEGAO



※過去の放送の様子

これまでの放送内容は
こちらから！



当院は臨床研修指定病院です。

〈臨床研修理念・基本方針〉

- 臨床研修理念
チーム医療を育む協調性とリーダーシップを持ち、患者に寄り添いながら全人的医療を主体的に実践できる医師を育成する。
- 臨床研修基本方針
 1. 患者および周囲との協調および敬いの心を常に意識できる。
 2. 安全な医療を提供するための基本的知識、技能を習得する。
 3. あらゆる救急疾患への初期対応能力を身につける。

